

「日向地誌」からみた明治初期日向国における食料と栄養
五島 淑子（山口大）

目的 「日向地誌」を基礎資料として、明治初期日向国の食料と栄養の特徴を明らかにすることである。

方法 資料は平部 瀧南「日向地誌（復刻版）」新潮社（1976）を使用した。「日向地誌」に記載された物産のうち食用産物を選びだし、推定総生産量を算出し、さらに重量換算を行った。主食に属する農産物について、「明治11年全国農産表」に記載された普通物産と比較を行い、「日向地誌」の記録の性質を明らかにした。算出した推定総生産量をもとに当時の人口および365日で除し、1人1日あたりの食料生産量を算出した。栄養素等供給量の算出には、食品成分表（3訂）を使用した。

結果 「日向地誌」の記載は、宮崎郡、那珂郡、児湯郡、臼杵郡、諸県郡の5郡で、日向国全体村数は374村である。主食料について、「日向地誌」の記録と「明治11年全国農産表」を比較した結果、「日向地誌」の記録は、商品価値のある産物の記録が中心であると考えられた。日向国の食料生産の特徴は、穀類ではコメが最も多いこと、イモ類ではサツマイモが多いこと、砂糖類があること、豆類ではダイズ、野菜類では、ダイコン、タケノコ、果実類ではカキ、ミカン、きのこ類ではシイタケが多いこと、魚介類はイワシ、シイラなど種類が豊富であること、獣鳥類では、ウシ、ウマが多いこと、嗜好飲料類には酒・焼酎があることなどが明らかになった。宮崎郡について栄養素等供給量を検討した結果、穀類エネルギー比が高く、脂質・動物性タンパク質が少ないことが分かった。